

審判構成

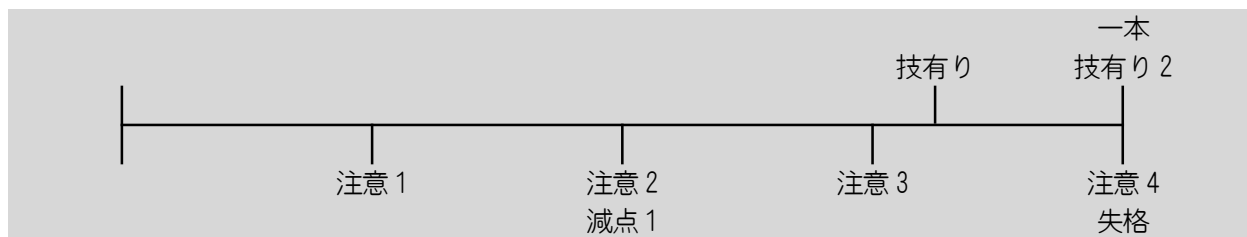
- ✓判定は審判長および審判員で決定する。
- ✓審判長および審判員は同等の権限を持って判定にあたるが、最終的な決定は全て審判長の裁決による。
- ✓審判員は主審1名と副審2名以上を原則とし構成する。
- ✓審判長は主審に意見を述べたり要請することができる。
また、主審は必要があれば審判長に意見を求めたり要請することができる。

審判と勝敗

- ✓本戦で必ず勝敗を決定する本戦マスト方式とし、延長戦は行わない。
- ✓勝敗は一本勝ち、技有り(2回取った場合は一本となる)、判定勝ち、相手の失格ないし棄権により決定される。
- ✓一本勝ち・失格・棄権がない場合は主審と副審の過半数の判定で決定する。
- ✓判定によって勝敗を決する場合は、主審の「判定」宣告と同時に全審判員が表示を行う主審同時上げとする。
- ✓試合中、主審を中心とし審判員同士で協議を行うことができる。

判定基準

- ✓1試合の全体を見て判定を行う。
- ✓①技有りの有無、②減点の有無、③ダメージ、④技的的確性、⑤気迫の順とする。
※必ずしも手数足数がダメージに勝るものではない。



一本勝ち

- ✓反則箇所を除く相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3秒以上動きが止まった場合。
- ✓戦意喪失した場合。
- ✓技有りを2回取った場合。

技有り

- ✓反則箇所を除く相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、動きが止まった場合。
- ✓上段への蹴りが的確にクリーンヒットした場合。
- ✓前蹴りや下段蹴りなどで相手を倒し、タイミングよく下段突きを決めた場合。
- ✓技を仕掛けた選手が転倒し、その相手選手がタイミングよく下段突きを決めた場合。

反則

- ✓金的への攻撃、頭突き、掴み、抱えこみおよび掌低または拳、肩による押しは全て反則となる。
- ✓拳、肘など肩も含め腕部位による首を含めた顔面への攻撃。(上段ヒザは反則となる)
- ✓頭をつけての攻撃。前進ありきの体圧。(踏ん張って上体をのけぞらせる行為も体圧とする)
- ✓倒れた相手への攻撃。および背後からの攻撃。
- ✓掛け逃げや故意による転倒は審判が注意を与える。
- ✓審判が消極的と判断した場合は注意を与える。
- ✓反則は注意2で減点1となり注意4で失格となる。但し、悪質と判断された場合は即失格も有り得る。

失格

- ✓減点が2となった場合。
- ✓係員や審判員の指示に従わない場合や粗暴な言動、悪質な態度、悪質な反則と見なされた場合。
- ✓規定外の道衣や防具を使用した場合。
- ✓時間に遅れ進行の妨げとなる場合、および出場しない場合。
- ✓大会申込書に虚偽の記載や不正行為が発覚した場合。

選手の服装

- ✓清潔な白色または乳白色の空手衣(その流派の正装)を着用すること。
- ✓袖が無かったり極端に短く半袖のような空手衣は認めない。また、過度の装飾が施された空手衣も認めない。
- ✓女子のみTシャツ着用を認める。
- ✓標識紐(赤いひも)と着用義務の防具を各自で準備し着用すること。

防具

○着用義務 ×着用不可能 △着用任意(希望者のみ)

	幼年		小学3年未満		小学3年以上		中学	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
ヘッドガード	○	○	○	○	○	○	○	○
拳サポーター	○	○	○	○	○	○	○	○
すねサポーター	○	○	○	○	○	○	○	○
膝サポーター	△	△	△	△	○	○	○	○
ファールカップ・アンダーガード	△	○	△	○	△	○	○	○
胸ガード	×	×	×	×	△	×	○	×

- ✓防具と標識紐(赤いひも)は主催者側では準備しませんので各自で用意すること。
- ✓ヘッドガードは白色または黒色で顔全体を覆うものに限る。
イサミ製 CKW-10、TT-25、MW 製 HG15、HG17 または同等の物。
- ✓拳サポーター、すねサポーター、膝サポーターは布製のものに限る。
- ✓サポーター類でパットが極端に薄くなっているもの、改造したものは使用を禁止する。
- ✓ファールカップ、アンダーガードは道着の下に着用すること。
- ✓女子の胸ガードはイサミ製 D-16、TT-28、MW 製 CG32、CG28、またはスポーツブラタイプで同等の物。
みぞおちにかかるもの及びプラスチック製は禁止。(L-711、L-8202、L-8303 等、腹部にかかるものは不可)

試合時間

	真勇新人戦	真勇カップ東日本ジュニア		
	新人戦	初級	中級	上級
本戦	1 : 0 0	1 : 3 0		

- ✓本戦で必ず勝敗を決定する本戦マスト方式とし、延長戦は行わない。
- ✓複数のクラスが混合・統合される場合の試合時間については対象範囲内でもっとも短い試合時間とする。

補則

- ✓上段ヒザ蹴りは全て反則とする。(故意でない場合でも反則となる)
- ✓このルール案内に無い事態が発生した場合は、必要に応じ役員が協議を行い審判長が最終決定をする。
- ✓協議結果や試合結果に対しての意義申し立ては一切認めない。